



年頭のご挨拶

亀田クリニック院長
黒田浩司

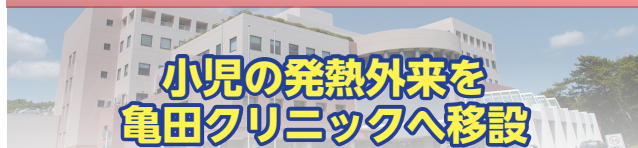


明けましておめでとうございます。

皆様におかれましてはお健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。この亀田ニュースも今号で1001号の発行を迎えることができました。ご愛読、感謝申し上げます。

- 2022年の年初に期待していたのは新型コロナウイルス感染症の収束が見えることでした。3年もあればウイルス感染も克服できるのではないかと、具体的には感染症法上の分類が厳格な「2類」相当から季節性インフルエンザ並みの「5類」に引き下げられるという予測もありましたが、夏の第7波では、それほど甘くないことを思い知らされました。しかしながらこれまでの知見を踏まえて、感染管理対策を徹底することで、当院の3次救急体制はしっかりと維持することができました。

亀田クリニックでの昨年の大きな変化と言えば、医療情報管理アプリNOBORIの活用による受診環境の「カイゼン」があげられます。構想としては数年前から準備に取りかかっておりましたが、ようやく運用にこぎつけることができました。このアプリ内でクレジットカードの登録を行うと、医療費の後払い決済ができるようになります。会計に並ぶことなく帰宅できるのです。お薬についても宅配サービスをあわせてご利用いただければ、そのまま帰宅することも可能です。少しでも快適に受診していただけるよう、今年も「カイゼン」に取り組みます。後払い決済システムをお使いにならない方には自動精算機の導入も検討中です。大きなスーパーや衣料品店の購入の際などでセルフレジが当たり前になってきているように、病院・クリニックでも同じことができるようになります。医療版DX（デジタル・トランスフォーメーション）という言葉の意味を実際に感じていただくことができる場面を増やしてゆくことが、今年の亀田クリニックの目標です。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



○ 発熱症状のあるお子さまへ、より迅速かつ細やかに対応するため、12月より小児（0～15歳）の発熱外来をD棟から亀田クリニック2階に移設しました。

感染対策に十分配慮し、一般の患者さまと待合室を分け、お薬や会計も発熱外来内で完結できるようになっています。

発熱外来は予約制です。お電話をいただいた際に、以下をお聞きしますのでご準備ください。

- ①現在の症状 ②いつ頃から症状が出たのか
③ここ数日の行動 ④陽性者との接触の有無
⑤診察券番号（当院に受診歴のある方）

診 察 日	月～金曜日（祝日を除く）
受付時間	8:00～11:30
診察時間	9:00～11:30
連 絡 先	04-7099-1111（予約センター）

※駐車はパーキング棟2階「午前中発熱（等）小児受診者専用」の看板がついた区画をご利用ください。

※定期受診の方でも10日以内に発熱・カゼ症状があった場合は、発熱外来をご案内することがあります。

+ クリニックを受診される方へ

当院では、新型コロナウイルスに感染された方や濃厚接触者の方の外来受診は、**発症後10日以降**とさせていただきます。医療機関には重症化リスクの高い方が多く来院されるため、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

発症後10日以内にクリニックの受診や検査などの予約がある場合は、**前日16時までに**予約センター（04-7099-1111）にご連絡いただき、予約の変更などの手続きをお願いいたします。

※発症・濃厚接触後の来院日が確認できる「来院日チェック表」がWebからご利用いただけます。



bayfm「MEDICAL UPDATES」

FMラジオ局ベイエフエムの午後のワイド番組『it!!（イット）』では、毎週火曜日の午後3時から、当院のスタッフが出演する「MEDICAL UPDATES」のコーナーが好評放送中です。1月も歯科診療科部長の大越林太郎歯科医師が、「歯にまつわる健康」をテーマにお話しいたします。

体のサインを見逃さない

腎臓病**A to Z**

腎臓高血圧内科 鈴木 智

**第1話 腎臓の役割と腎臓病**

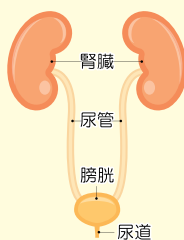
皆様こんにちは。腎臓高血圧内科の鈴木智と申します。これから全12回シリーズで腎臓病について、当科で行っている取り組みとあわせてご紹介していきます。

腎臓の役割

腎臓は何をしている臓器かというと、主には2つあります。

① 血液からの老廃物や余分な水分を濾過し、尿をつくり、排泄する

② 血圧を調整するホルモンや、血液をつくるホルモンを産生する



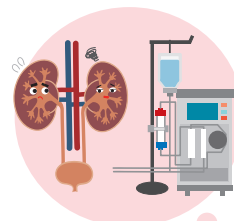
腎臓の濾過機能が円滑に働くためには、血液の流れが一定に保たれる必要があります。そのため、腎臓では血液の流れが悪くなるとそれを感知し、レニンという酵素を分泌し、レニン・アンジオテン・アルドステロン系(血圧や細胞外容量の調節に関わるホルモン系の総称)を活性化することで、血圧や尿量を調整しています。また、腎臓の間質にある細胞がエリスロポエチンというホルモンを分泌し、骨髄での血液(赤血球)の産生を働きかけます。そのため、腎臓病が進行すると腎臓からつくられるエリスロポエチンの量が減少するため、十分な量の血液がつくられなくなり、腎性貧血となります。

腎臓病とは？

腎臓病は大きく分けると、慢性腎臓病(Chronic Kidney Disease : CKD)、急性腎障害(Acute Kidney Injury : AKI)があります。腎臓の能力がゆっくり悪くなるのがCKD、早く悪くなるのがAKI、と理解していただければと思います。

CKDの中で最も多い原因は糖尿病性腎臓病ですが、他にも腎臓が悪くなる原因は多々あり、一部に遺伝が関わる疾患もあります。そこで、腎臓が悪くなる原因を精密に調べるため、腎生検(腎臓に針を刺して、腎臓の一部を採取する検査)が必要になることがあります。

また、腎臓病の進行と関係が深いのが高血圧です。腎臓の能力が悪くなると血圧が高くなりますし、高血圧が持続しても腎臓の能力低下を招くため、血圧の管理はとても重要です。当科は腎臓高血圧内科であり、高血圧診療にも力を入れています。

**病気の進行と治療法**

腎臓病が進行し、毒素が溜まり尿毒症となる、もしくは体液量が過剰になると、腎代替療法(Renal Replacement Therapy : RRT)が必要となります。

RRTは血液透析、腹膜透析、腎移植(生体腎移植もしくは献腎移植)がありますが、適切な時期にかつ安全にRRTを開始することが重要です。当科の血液透析、腹膜透析の歴史は非常に長く、また生体腎移植に関しても1991年に初の症例を実施した記録が残っています。その後、生体腎移植はしばらく行われてきませんでした。2017年から体制を整え本格的に実施しています。もうすぐ献腎移植も開始する予定で、準備を進めています。

また、最近では高齢化が進んでいるため、高齢の腎不全患者さまにRRTは行わず緩和医療・ケアを行う、保存的腎臓病療法(Conservative Kidney Management : CKM)が注目されています。

医師紹介 なかみなと しゅういちろう 中港 秀一郎 医師

- ① 担当科目
- ② 診療における得意分野
- ③ 趣味
- ④ ひと言



- ① 放射線科 部長、画像診断センター長
- ② IVR、画像診断全般
- ③ ドライブ
- ④ 丁寧な診療を心掛けております。



Kameda Medical Center

亀田ホームページ <https://www.kameda.com>